

東北大学大学院歯学研究科
インターフェイス口腔健康科学
第61回学術フォーラム
Forum for Interface Oral Health Science

顎顔面領域における
異常疼痛発症のメカニズム

篠田 雅路 先生

日本大学歯学部生理学講座・准教授

平成24年11月30日 (金) 17:30～19:00
B1講義室 (講義棟1階)

抄録：“痛み”は生体防御の警告信号であり生体が生命を維持するために極めて重要な感覚である。しかし、侵害情報の持続的入力や強度のシグナル入力により侵害情報伝達系に可塑的変化をおこし、生体防御としての意味をなさない異常疼痛が発症することがある。顎顔面領域においては、慢性歯周炎、下歯槽神経損傷や顎関節症に伴う異常疼痛などが知られているが、その発症メカニズムは不明な点が多く治療に苦慮しているのが現状である。我々は、さまざまな顎顔面領域の異常疼痛モデル動物を作成し、その発症メカニズムを解明してきた。なかでも末梢神経系に発現するATP受容体やTransient receptor potential vanilloid 1の可塑的変化が顎顔面領域における異常疼痛発症に重要な役割を果たしていることがわかった。本講演では最近の疼痛研究の現状をふまえ、我々が得た知見を中心に報告し、御参加の方々と活発な議論を交わしたい。

第61回モデレーター：土谷 昌広 (加齢歯科学分野)
連絡先：内線 8396 PHS 6626